

## 地域自立支援協議会 会議要録

会議名:令和 6 年度第 3 回白井市地域自立支援協議会全体会

日 時:令和7年 3 月 27 日(木)

場 所:団体活動室1・2・3

出席者:林会長、鈴木副会長、飯ヶ谷委員、石川委員、高木委員、東坂委員、吉田委員、横尾委員、染谷委員、村松委員、久松委員、秋本委員、(12 名)(以下、敬称略)  
事務局(石田課長、伊藤、久保田、會津、高橋(友))

欠席者:大網委員、山崎委員、橋本委員、野路委員、藤井委員、実松委員、高橋(奈)委員、小林委員、松島委員

傍聴者:0 名

資 料:会議次第

資料 1 各部会等活動報告

資料 2 日常生活用具給付の拡充について報告

資料 3 次年度以降の地域自立支援協議会全体会で取り扱いたい内容

資料 4 次年度以降の予定

・基幹相談支援センターパンフレット

・地域福祉計画ワークショップ

議 題:

(1)各部会の活動報告 資料 1

(2)日常生活用具給付の拡充について 資料 2

(3)次年度以降の地域自立支援協議会全体会で取り扱いたい内容 資料 3

(4)その他 報告事項

・次年度以降の予定について 資料 4

内 容:

### 議題(1)各部会の活動報告

<相談 WG>部会長より資料に沿って説明

鈴木:にも包括について。会の名前がメンタルサポートネットワーク。よく考えると意味の分からない名前。しっくりこない。メンタルヘルスサポートネットワークとかにするのは。医療機関の冊子の作成で、思ったよりも協力が得られている。やってみるものだった。

飯ヶ谷:名称については考えてみる。医療機関の冊子については、他圏域では協力を得られていないところもある。県からも評価を得ている。

林:コーディネーターの配置。計画相談のコーディネーター加算で R6.4~国が整備した。確かに、コーディネーターで常勤一人の必要があるかの検討は必要。しかし、一方市内の相談員が数名しかいない。相談員がコーディネーターの機能(緊急対応)を併せもっていることが業務を圧迫していると聞く。白井市全体で見た時の相談員の稼働の状況を含めた検討はあったのか。また、基幹の機能として持たせることになっているが、基幹が担っている部分を、切り出すことを検討するのもよいのでは。

飯ヶ谷:検討の中では表層的な話はあったが、深掘りは出来ていない。基幹の全貌も見えておらず、コーディネーター業務がどれほどできるのか。継続的に協議していきたい。

事務局：市全体の相談員の人数から見るという観点の協議は出来ていない。その視点も大事だが、やはり、拠点コーディネーターを常勤として 1 名もうけるための行う役割の協議も必要である。基幹が始まるので、そこで拠点のニーズ、緊急対応がどういうものがあるかを見ていくことが大事。

<こども WG>部会長より資料に沿って説明

事務局：補足。子どもの福祉に関するサポートマップ。各事業所へ確認はできているが委員への確認がまだ。7 月の 1 回目の会議で各委員に確認し R7.8 月以降に活用できるようにしたい。

東坂：教育機関との連携。具体的にはどんなことか。

飯ヶ谷：市事業者と協議していて、学校、保育所とそれ以外と壁がある。なにが壁なのか、どうして連携がうまくいかないのか等話し合った。

事務局：教育と福祉の連携、来年度研修会開催し、共通の理解を深めていく。

横尾：教育側。市内小中と福祉で、夏に教職員の研修、見学会などを行なう予定。2 月発達センター職員による療育や保育所等訪問の話を開く研修を設けた。どのような福祉のサービスを受けているのか、福祉サービスを受給する流れなどについて、教師側の理解が深まったとの感想があった。

久松：いちごの会。未就学児は福祉の側面が強い。基本的に安心している。就学になると支援・福祉の側面から教育に一気に切り替わる。白井市内の小学校は恵まれていると思うが、属人的な部分はあるよう。定性情報にニーズがある。うまくつないでいかなければと思うが、偏りがでてしまう。ここで出る事業所からの意見などをつなぎ合わせて、しっかりとしたニーズに沿った支援につながると思う。

事務局：保育所訪問。幼稚園側の受け入れに拒否感があると聞く。障害者等計画策定をしている。今年初めて中学生にアンケートをした。教育委員会との協議が難航した。話し合いを行い、実施することができた。アンケートで中学生が障がいについて、興味関心があることが分かった一方、知識は少なくアンバランスな現状と分かったことから、教育の場で好奇心を満たしていけるように生かしていきたいと発言があった。話し合えばわかり合っていけると感じた。

林：放デイ定員があふれている。児発はかなり空きがある。市の課題として自立協で扱うか、民間に回すか。サービスの質・範囲。放デイができる時に、現状の市内に必要な療育ではなく、新しくできる法人が提供できるサービスを提供している。量的・内容・質をどう担保するか。どこの地区にどういった療育ができるところが不足しているかなどを話し合えると良い。放デイはほとんどの事業所で 5 領域をほぼやれていないのが実態。市として課題。発達センターはしっかり療育やっている。特別支援学校の卒業生の受入れをフラットでしているが、強度行動障がいの児が毎年 1 人はいたのが最近は 2, 3 年に 1 人になった。早期療育の必要性・重要性はあると思う。将来的な視点を持って取り組んでもらえれば。

<就労部会>部会長より資料に沿って説明

飯ヶ谷：就労選択支援のサービスが始まる。懸念していることとして、支援学校の目の前に選択支援と B 型を開所して、そのまま横流しにならないか。そういう議論はあったか。

高木：部会内で協議は行っていない。研修の提案はした。10 月から始まる。市としてどのように提供していくかは重要な問題と考える。

鈴木：光明会で、就労選択支援の説明行きますというチラシをもらった。連絡したら教えてくれると。よくわからない制度。そもそもの話から知りたいと思い連絡をしたら、個人的にでも教えてくれると伺った。就労応援フェア

後の見学の調整をなかばつで行わないのはなぜか。相談会・フェアの実施について無理しなくてもよいのではという議論があったが、光明会としてやることが決まっているとのこととて実行した。当日の準備等含め引継ぎがうまくできていなかった。

高木：応援フェアや見学会・面接会は地域別でどこが主催かが変わる。自立協と、なかばつとある。共催のものに関しては協議会で行ってほしいということのよう。

鈴木：それは途中で方向性が変わっているのでは。

事務局：来年度の開催についても前回話し合った。やるという方向で終わったと思うが、役割分担の詳細も含めた案で、来年度初回に実施の有無から話し合った方が良くかと。

事務局：障害者計画の策定委員のアンケート結果。白井の特徴として、就労したい率が上がっている。したいところではできなかったの項目が下がっている。就職率も上がっている。皆さんのご尽力の賜物と思われるため、その理由を後々協議会の場などでお伺いできるとよい。

林：使用者虐待などについて話し合われたか。被虐待者が声を上げないと見つからない。深刻な問題と思う。している側されてる側も認識がない。啓発としても来年度取り扱ってもらえたら。

鈴木：部会では扱っていない。白井市の特徴として、就労支援員が行政にいる。不適切なかかわりなどについて相談があるのではないか。就労相談は基幹が出来てもなくなるないでほしい。

事務局：昨年の自立協で虐待の研修。各事業所から必ず 1 人出てもらった。通報件数今年増えている。研修との直接的な因果は不明だが、啓発は重要な役割ととらえている。

#### <障害福祉サービス事業者研修>

今年度はヤングケアラーについて。

市内外 24 名参加。感想としても好評。普段、意識のある人たちが参加して下さっている。意識のない人にどう届けばよいかが課題。

高木：良い研修であった。就労移行支援は 18 歳を超えた方。ヤングケアラーはその前の話かと思ったが、18 歳を超えても続く家庭の問題。働くうえで家庭の問題は大事なので、しっかりアセスメントしていきたい。

鈴木：案内出すのが遅かった。もう少し早ければより多くの人に調整いただけたのでは。まずは話を聞いて権利を守ることを念頭に置いて支援するという話だった。勉強になった。また機会があればお呼びして話を聞きたい。

報告書の内容について、満場一致で可決

#### 議題(2) 日常生活用具給付の拡充について

事務局：資料 2 参照。4 種の災害用備品を追加。

吉田：どのように周知するか。

事務局：チラシを窓口、HP 等での周知の予定

吉田：対象者が知らなかったというのはよくある。必要な方に情報が行くようにする。1 年後にどのように給付されたのか報告があれば。

林：皆さんからも周知いただきたい

### 議題(3) 次年度以降の地域自立支援協議会全体会で取り扱いたい内容

事務局：資料 3-1 参照 「困難事例をサービス提供事業所からも事例提供があってもよい。」「事業所同士の横のつながり作り。」「特支通学の実態について。」「インフォーマルサービスの確認。」「サービスの質・量」について取り組みたいという意見あり。

林：多職種連携、来年度。交通費助成の制度は、交通網の整備が白井市として以前からの大きな課題としてある。引き続き協議を。

久松：質量の確保について身近な声から。質は相談員がサービスを知らないことで利用につながらなかったことがあった。同じ立場でも受けられるサービスが異なっていた。量は、本来受けられる人が受けられていないサービスがあるのでは。実情を勉強できればと思った。

林：行政・民間の事業者の問題ではあるが、自立協でも取り扱えると良い。就労選択支援についても来年度取り扱ってもらえればと思う。

### 議題(4) その他

#### <次年度以降>

事務局：R7.4.1 から基幹をフラットに業務委託する。事務局も業務内容に入っている。来年度の委員について異動がある場合は 4 月上旬までに申し出ていただきたい。基幹 1 階に開所。4/3 10:00 開所式を行う。参加希望される場合はお知らせいただければ。

#### <次年度予定>

飯ヶ谷：基幹の職員で、事務局として残る。パンフレットを持ち挨拶に伺っているところ。基幹が事務局を担う。若干回数が増えている。内容を形骸化させないようにしたい。とり扱う議題も多く負担が増えてしまうがご協力をお願いしたい。

#### <林会長より>

自立協は初期から関わっている。自分の事業所にしか視点がなかったが、自立協を通じて市のために自分たちの法人がどうあるべきか、という視点を得た。この場と委員に感謝申し上げる。

以上